令和４年度　第３回学校運営協議会・第１回学校評価部会

令和４年１０月７日（金）　於：上越市立有田小学校　会議室

１　開会のあいさつ（会長）　略

２　後期学校評価結果の説明　略

【学校評価へのご意見など】

〔メディア実態調査やｉＰａｄの使用方法について〕

Ａ氏：（別紙メディア実態調査について）この42.1%という数値は、１年生から６年生までの全ての…ということだが、それぞれの学年ごとの数値は出せるか？

教頭：データがサーバー内のため、すぐにお示しすることはできないが、可能である。

Ａ氏：例えば、６年生はさらに多いなどという状況はあるか？

教頭：学年ごとの集計ではなく、全体で集計したため詳細な分析ができていない。議事録や学校だよりにてデータをお示ししたい。

Ａ氏：家庭科ボランティアで来校した際、先生がタブレットを用いて説明し、作業を始めるよう指示をしたところで、一人のお子さんがタブレットを取り出して見ていたことがあった。今日、様子を見て回ったけれど、全て収納ラックに片付けられていたクラスもあった。使い方のきまりはどのようになっているか？

教頭：学習用ｉＰａｄについての基本的な「使用のきまり」はあるが、授業での使用方法などは担任の裁量や学級でのルールに沿う形になっている。例えば、低学年は落下する可能性もあるとして、使用するときのみ収納ラックから持ってくる、終わったらみんなで片付けるという学級もある。一方、高学年になると分からない時はすぐに調べるということを推奨する授業もある。例えば、自分が担当している社会科では、昔ならば辞書だったが、疑問に感じたときはすぐにｉＰａｄで調べてもよいとしている。

Ｂ氏：そのとき、授業とは全然違うものを見ていたのか？

Ａ氏：いや、これから始める作業のやり方などを調べていた様子だった。それはそれでよいが、その子だけが使っていたので気になった。すぐに使いこなしていると考えればよいのだろうが。

Ｂ氏：良い悪いもあるのだろうが、これからやることを予測して自分で準備し、使えそうな時に使うということができれば、それはかなりのものだ。

Ａ氏：このタブレットだが、学校から持ち帰ることはしていないのか？

教頭：今日、次週行う接続テストのお願いを配付した。今後、週末持ち帰りを進めたいと考えている。市内各校で対応に差があるのだが、有田小としてもいくつか理由があって持ち帰りを進めたい。まず、コロナ対応。現時点で集団発生には至っていないが、休日明けから自宅待機という子どももいる。例えば、高学年の子の多くは２～３日で体調は回復しても７日間は自宅待機となるが、その間、リモートで授業を見ることができるということは大きい。次に、学級閉鎖の時の対応。低学年であっても、電話をしなくても状況を確認できることが大きい。例えば、学級閉鎖となると、子どもたちの健康状態などを確認するために約３０件に電話をすることになるが、ｉＰａｄを用いると１度で多くの子の状態を、しかも顔を見ながら確認できることが大きい。その上で、課題なども出すことができるということで、持ち帰りを進めたいと準備をしている。

Ｂ氏：学級閉鎖の時にしか使えないものなのか？

教頭：学年差はあるが、高学年では長くお休みすることが判明した時点で、担任がｉＰａｄを置き配の形で届けて、リモートで授業を見ることができるようにしている。中・低学年は、リモートでは何のことか分からないということもあるので、そこまでは行っていない学年もある。

B 氏：一人でも対応できるということから？

教頭：カメラで学級での板書や先生の声、みんなの声が配信され、必要な時には発言することもできるという状態を指すのであれば、対応できる。テレビ電話のような使用になる。

C 氏：具体的にはどのような使い方になるのか？特に、開始の連絡などは？

教頭：高学年では、ｉＰａｄを渡す際、「８時１５分に Google classroom に入ってね。」などと指示をしていた。保護者の皆さんはＰＴＡメールをお持ちなので、それで利用したり、子どもたちの Google classroom でも伝えたりすることができるので、それらを用いることができる。

C 氏：子どもたちはみんな使えるということか？

教頭：このあたりが学年差ということになる。将来的には、たとえ１年生であっても Google classroom に接続し、Meet 機能を用いてテレビ電話のようにやり取りができるようになるとよいと考える。ただし現在は、高学年はできるけれど、低学年ではできるかどうか疑問というところだ。

C 氏：せっかく持ち帰っても使えないというのは勿体ない。

教頭：全く同感だ。最初は使い方を学ぼうという課題になる可能性は高い。もちろん、教室でも練習はするのだが、実は教室で一斉に Meet 機能を使うとアンテナがパンクすることがあり、難しい。

〔学校評価アンケートの分析について〕

D 氏：学校評価アンケートの回答率についてだが、保護者の回答率が低くなってきている。紙ベースに戻す考えはあるか？

また、未回答分の３割についても、比例展開して評価をしているのだが、果たしてそれは実態に即していると言えるか？回答しないということは、否定的回答である可能性が高いと推察することもできると思うのだが、そのあたりについては？

教頭：紙ベースのときは 90％を超える回答率であり、確かに信頼のおける評価だった。しかしながら、保護者の皆さんの利便性や集計作業の省力化を考慮して WEB 回答を取り入れた経緯がある。学校としては、担任が回収した全ての回答を入力し、更に自由記述も入力していたこれまでの方法は大変な労力と時間が必要だったが、現在は教頭一人で対応することができるようになった。それは有難いことなのだが、約３割…つまり約 180 人分の回答がないというのは、確かによろしくはないなと感じている。では、紙ベースに戻すかというと、これは悩ましい。３割の声なき声が、どのようなものであるかについては、指摘のとおり否定的な回答もあれば、無関心によるもの、忙しくて回答どころではないものなど様々あると考えるが、いずれにしても心配である。

D 氏：いただいた資料に全員が提出したとすると…という数値があることから、気になって質問した。今後も WEB 回答で続けていくのであれば、表など工夫する、未回答というものを記すことも必要に感じる。今後検討してほしい。

教頭：「％」では「人」が消えてしまうのではないかとの思いからの表であったが、指摘の意図は理解できる。今後、検討したい。

B 氏：両方を配付し、好きな方で回答していただくという方法もあるだろう。若い保護者は WEB の方がよいと思うが、紙だからこそ「返さなくては」という思いになるかもしれない。

〔あいさつについて〕

B 氏：あいさつの実態についてだが、先の提案を受け、家族と地域に分けてくださったわけだが、結果を見るとやはり差があった。このことがはっきりと分かったことはよかっただろう。ところで、子どもたちにとっての地域の人とは、どのような人たちのことを指すのだろうか？地域で会う人全てを指す…と言うわけにはいかないだろうが。子どもたちのイメージに沿うしかないのだが、地域とのあいさつはまだまだだと考えるので良いのだろうか？

校長：アンケートは質問を増やせばより細かく分かるし、手立ても立てやすくなる。しかし、そんなに増やすわけにもいかず…というのが現状だ。では、実態はどうかということになるのだが、私が実際に校門で立って感じることは、そんなに地域の人にあいさつをしているのかなぁと。では、友達や家族にはどうかと言えば、これもそこまでできているとは感じられない。確かに仲の良い友達にはあいさつをしていて、あいさつの木にも「あいさつをされてうれしかった」とたくさん貼ってあるのだが、誰にでもしているかというとまた別であろう。ここで肯定的評価をしている子は、きっと地域の誰かにはあいさつしているから肯定的評価を付けていると。全ての人にではない。もう少しレベルを上げた設問とすればはっきり分かるのだろうが、そうすると誰にも答えられなくなるだろう。これはあくまで目安だととらえると共に、地域で育ち、地域に貢献する子であってほしいと願うので、もっと地域の方々とあいさつをしてほしいと思うし、これからも力を入れていかねば…と私は感じている。

E 氏：結果はこのとおりだが、少し思うところもある。私が見守りをしている場所では、父親が連れてくる子がいて、まずは父親と私、そしてその子と私とあいさつをしていくが、大変おとなしい子で幼いこともあって声にはならない。だから、正直、声に出してのあいさつは期待していない。友達とは話しているということなので、大人の男が相手で緊張もしているのだろう。だが、声は出なくても仕草であいさつをしていることが分かる。そのような子もいる。父親と世間話をし、続いて子どもと何気ない話をし、そうやって少しずつ。そのように声掛けをしている。

教頭：心砕いてあいさつ、声掛けをしてくださっていることに感謝したい。だからこそ、自分はできていないけれど、地域の人からたくさんあいさつをしてもらっているという結果につながっているのだろう。それに返せるようなると良いのだが、まだまだということが結果からも分かる。地域の皆さんに、子どもたちがあいさつで元気を配ることができるようになるといいなと思う。

B 氏：子どもたちは、地域の方々からあいさつをしてもらっているという捉えだということが分かったことは大きい。直江津東中学校区青少年育成会議は、「あいさつは大人から」として様々な取組を続けてきた。子どもたち同士だけにとどまらず、大人も含めて取り組むことの価値というか、そのことが反映されていると感じている。子どもたちにさらに声を掛けてやって欲しいと地域に伝えてよい結果だと思う。

校長：そういう地域の温かさというのは、子どもたちに必ず残ると思う。私としては、子どもから発信されるあいさつが増えていくことで、地域が明るくなる、元気になっていく学校をつくりたいと思う。

F 氏：あいさつは良くなっている。下校時は格段に元気が良い。それに比べると朝は元気がない。歩き方もずるずるというか…。そんな中で、朝から大きな声であいさつをしようというのも難しいのかなとは思う。ただ、校長先生は朝から大きな声であいさつをされている。そうすると、子どもたちもあいさつをしようという雰囲気に向かっている。地域や家庭でも同じで、我々大人がそのような雰囲気をつくっていくことが大切ではないかと思う。

校長：大きな声を出すことは、本来、子どもたちには楽しいことのはず。しかし、この２年間、コロナもあって、そのような機会が失われてきた。合唱もそうだ。しかし、少しずつ条件が緩和されてきた。

Ｇ 氏：確かにあいさつ運動が始まると、子どもたちはあいさつをする。でも、あいさつ運動が終わるとしなくなってしまう。最近はマスクもしているから、表情もうかがえない。それでも、話はしてくるね。最近だとマラソン大会の話とか。顔を知らない人には気を付けようという最近の風潮もあるから、いきなりは難しいこともあるだろう。お互いが顔見知りになっていくとよいのだろうと思う。

Ａ 氏：あいさつ運動の定着ということでは、子どもたちの声も出るようになってきたけれども、我々も声を出せるようになってきたことは有難い。以前は不審者に思われたらどうしようとかもあり、声掛けどころかあいさつすらも難しかった。それが、今では地域の大人から「あいさつしよう」となっている。

教頭：良かれと思って声を掛けたら不審者扱いされた…など、難しい時期も確かにあった。あいさつを通じてお互いが顔見知りになっていくことができれば、それはいろいろよい影響があると思う。

〔児童の実態などについて〕

Ｂ 氏：資料内にある「ややポジティブ」という表現について説明してほしい。

教頭：これは、資料を分析する際の記録を残したものである。例えば、「友達から温かい言葉を掛けられている」という質問と「誰にでも温かい言葉を使っている」という質問があり、比較した際、「使っていて」「掛けられている」という分析ができれば「ポジティブ」と表記した。「やや」としたのは、肯定的評価は高い数値であったものの、わずかながらに「掛けられている」という評価の方が少なかったことからである。ただし、これは私の見取りであるので、委員の皆様からの御批正をいただければ幸いだ。

Ｂ 氏：なるほど。質問同士の相互性を見ているということか。

教頭：そのとおりだ。地域や家庭からのあいさつならば、皆さんが声掛けをしていると思っている以上に、子どもたちは声掛けをしてもらっていると感じていると判断できるので、「ポジティブ」としている。今回、初めてとった質問も多かった。そこで、どうすると分かりやすいかと試行錯誤している段階だ。

Ｂ 氏：ｉＰａｄの持ち帰りについては、資料を見る限り、取組を進め始めたと理解してよいか？

教頭：１０月の取組が該当すると考える。ただし、今後、学年による差もあると思う。

Ｂ 氏：休み時間の子どもたちの様子を見ると、いろいろなところで遊んでいる。児童玄関の広場などは先生方が気を付けて見守ってくださってもいる。今後、雪が降ると遊ぶ場所が限定されていくと思うのだが、子どもたちの運動量の確保についてはどうか？全員が体育館に行く…ということも不可能だろうが。

教頭：コロナもあり、子どもたちを混ぜられないこともあって、昨年は雪がある程度降ったことから、グラウンドを半分に分け、さらに体育館も入れてのゾーンニングを行った。困るのは、中途半端に積雪があってグラウンドが使えない期間。そうなるとどうしても範囲が限定される。そこで、運動量を増やそうと「なわとび」を勧めたのだが、わざとではないけれども顔を叩かれてしまうなどの事故も起きてしまって…。さらに細かく分けたり、縄跳びをしている子の周りで走る子に

注意を呼び掛けたりと対応してきたが、運動量は増やしてあげたいし、事故も起こしたくないしと、大変悩ましい。スペースを使わず、運動量は確保できる遊びはないかと思案している。

Ｂ 氏：同規模程度の他校の取組はどうか？例えば、春日小とか？

教頭：春日小の場合は、一雨降ると３日はグラウンドがぬかるむ状況になるのだが、小体育館がある。大体育館を二つに割り、小体育館を加えて対応していたかと思う。

Ｂ 氏：小体育館か…。

教頭：条件整備ということでは、後援会やＰＴＡの尽力もあって、校舎周り全面にグレーチングが取り付けられた。これまでは側溝に落ちる心配があったが、それがなくなり、校舎周りを元気に走る子どもたちの姿も増えたように感じている。冬の運動遊びについては、よい考えがあれば教えていただければ幸いだ。

Ｂ 氏：アウトメディアの取組はどうか？特に、保健体育部や学校保健委員会などの取組には、どの程度の保護者が、どのように参加する状況なのか？

教頭：ＰＴＡ会長はご存知だと思うが、ＰＴＡが主体となって取り組んでいる。ただし、現状では全体という訳にはいかないこともあり、学年部対応となっている。講演会という形が多く、そのときの状況を見ながら、参加の声掛けをしているという状況だ。

Ｂ 氏：今日の「Ｉ／２成人式」のように皆さんが積極的に来てくれれば良いが、メディア講演会は大切なのだが参加が少なくなりがちで、声掛けを続けてほしい。

〔保護者の自由記述について〕

Ｄ 氏：保護者の自由記述に気になるものもあるのだが、個別にアクションのあったものもあるか？

教頭：個別にもあり、アンケートにも記述されたというご意見もある。その際は、管理職が話をお聞きしてお気持ちを承り、今後、善処していくということになっている。

Ｃ 氏：ＰＴＡに関する意見もあるが、回答についてはこれでよい。コロナ関連の訴えもあるが、市教委からの指示がない限りは、従来の対応を継続するということでよいか？

教頭：県や市としては、全数把握の終了以降、一気にタガが外れることを恐れているのだと思われる。市教委からは報告については緩和する指示がきているが、対応については従来どおりとの指示が来ている。これは市立学校だけでなく、他校種でも同じだと思う。

Ｈ 氏：その通り。

Ｃ 氏：給食の様子を見たが、しっかりと黙食ができている。先生方のご指導のお陰だと思うが、Ｉ年生もきちんとルールを守って黙食をしていて感心した。もちろん、これが本来の姿でなく、和やかに会食ができるようになればよいのだが、緩和されるまでは仕方がないだろう。

Ｂ 氏：今までのようなＰＴＡメールでの連絡等や濃厚接触者の連絡はないということになるか？

教頭：今までどおりはできない。市としての発表がなく、県全体としての発表となっており、この状況で有田小だけが陽性者発生を発表することは筋が通らず、出しにくい。ただし、濃厚接触者特定については、陽性者の行動を確認して該当するようであれば、公表はしないがお知らせすることになる。

Ｂ 氏：濃厚接触者の特定作業は行っていると？

教頭：特定作業は行っているが公開はできないとお考えいただければ。もし、お問い合わせがあれば、実数はお知らせできないが、状況をお伝えする方向ではある。ただし、ガイドラインも少しずつ変わってきていて、一時のように濃厚接触者がどんどん増える…という状況でもない。

校長：現実的に、現在の対応で急激な感染者増は起きておらず、妥当性のある対策と判断しているものと思われる。学校で…というよりは、どこで感染するか分からないというのが実態だ。

教頭：集団感染は起きてほしくないのだが、そのような状況となった場合には、学校医の助言と市教委の指導の下、お示ししたように学級閉鎖等の措置を行っていきたい。さて、資料にあるように、学校だよりの掲載については紙幅の関係もあり、全てを掲載することは難しい。印のついているものを掲載したいと思うがよろしいか？

一同：（うなずく）

〔その他について〕

教頭：準備した資料は以上だが、それ以外に皆さんがお持ちのことはないだろうか？

Ｃ 氏：先日の朝、Ｊアラートがあったが、ＰＴＡの会合でも話題となった。致し方ない状況であるが、登校前であれば保護者が、登校後であれば先生方が対応することができる。しかし、登下校中の時間帯は空白であり、不安との声だった。そうしたときに、地域の皆様から助けていただければ有難くお願いしたい。

教頭：学校では、地震の場合は、震度５クラスで休校措置というマニュアルが作成されている。しかしながら、確かに登下校中は困ってしまう。職員が手分けして通学路を逆走し、指示をすることになるとは思うのだが、読めないところもある。今回のＪアラートは、そういったことも整理しておく機会なのだと考えた。Ｊアラート自体へのマニュアルは見当たらなかった。

Ｆ 氏：民生委員の場合、まず、自らの身を守る、次に家族を守る、そして、担当箇所を守るとあるが、先日のＪアラートの際は、目の前の子どもたちをどうやって守ろうか…それこそ、橋の下に入るように指示すればよいのか…などと考えた。親御さんなら尚更心配だろう。

Ｇ 氏：それこそ神頼みになってしまうか…。自分が見守りをしている位置なら、国道のボックスに入るようにするだろうか。

Ｅ 氏：私のところは、そんな丈夫な建物などがあるわけでもなくて…。ミサイルの場合、Ｊアラートが出たとしても既に通過しているときもあって対応は難しいね。

教頭：他校の情報も集めていきたい。

Ｆ 氏：登校班の話だが、６年生の子が私を気遣ってくれている。「そこ、滑りますよ」とか。どちらが見守りをしてもらっているのやらと頼もしく思う。６年生ともなると成長するなと感心だ。

Ｈ 氏：今日の参観中、私を見付けて「だれ？だれ？」という声があった。すると先生が、「誰かな？と思うのであれば、まず、あいさつしてみたら？」と声掛けをされて。その子が元気よくあいさつをしたら、他の子も次々とあいさつをしてくれて。先生の声掛けの仕方にも感心したし、子どもたちの様子にも感心して、有田小にまた来ることが楽しみになった。

Ｉ 氏：アンケートの分析も為されているので、適宜公開されていかれればと思う。

Ｃ 氏：前回、話題に挙がった暴走車両の件については、その後、警察が対応してくださったようだ。

３　閉会のあいさつ（校長）　略

（本議事録は発言録ではなく、記録者が要旨をまとめたものです）